

KANAGAWA

一般社団法人 神奈川県建築士事務所協会 <http://www.j-kana.or.jp/> email: info@j-kana.or.jp

3

March, 2015

vol. 395

Contents

建築探訪…01

会員仕事紹介…03

支部だより…06

旅行記…07

委員会活動報告…09

編集者のつぶやき…10

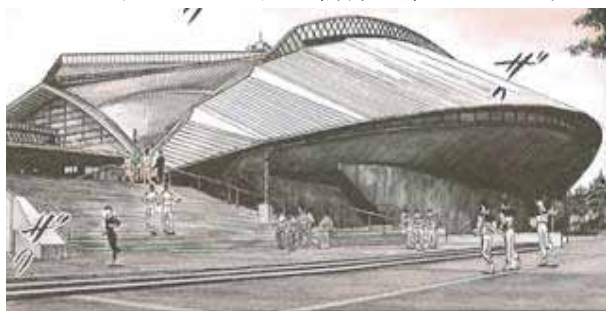


建築探訪

事務所を起点に半径4kmの旅

主題「建築探訪」、締め切り「今日」、う～ん無理だな…。そもそも、時間ナシ、金もちろんナシ、文才はじめからナシ、そんな小生が権威ある会報『KANAGAWA』に記事を書くなんて！広報委員のゴリ押しで（うそ、昨年末に依頼したじゃない！…そうです、忘れてました）。というわけで、表題の「事務所を起点に半径4kmの旅」を朝から実行してきました。

小生の事務所は藤沢市北部にあり、車通勤の途中には、昨年色々と話題を提供して頂いた巨匠「槇文彦」先生の作品「藤沢市秋葉台文化体育館」があります(3.7km)。皆さん御存知の有名な建築ですが、この建築は漫画スラムダンクの聖地として世のオタク達の信仰も集めています。



幕張メッセや東京体育館に先立つ1984年に完成し、今年で築後31年となりますが、ステンレスの表面にあえて均一なしわを与え遠目からの見栄えを考慮した「トンボの羽根」は未だ健在で、エッジが空に溶け込んでいます。

槇先生が、秋葉台の建築空間について講演された内容が下記サイトから御覧頂けます。

http://www.tozai-as.or.jp/mytech/87/87_maki06.html

藤沢支部 DAITOC一級建築士事務所
大和田 優

それでは探訪の語義、「実態をその現場に行き、さぐり歩くこと」を実践してみます。



悲しい写真が続きます。予算が無いのか？メンテナンスのセンスが無いのか？

偉大な作品に敬意を払った補修方法があるかと思いますが…。

見てはいけないうるものを見つけた。



決して近づいてはいけません。その他写真は掲載しませんが、タイルの剥離・躯体に追随したような微細な割れ、RC躯体直天井のひび割れ…嗚呼！「故郷は遠くにありて想うもの」。

もう帰ろうと駐車場に戻りかけたところで、一心不乱にタイルの打診検査をしている人を見かけました。こう頻繁に、しかも大勢で定期調査をしたら、そりゃタイルも落ちるわ！些か古いですが「駄目よダメダメ」です。



愛車に、乗り込みさあ出発、かつて槇先生が『新建』誌上で安藤忠雄、伊東豊雄らと共に「野武士」世代と命名した長谷川逸子氏設計の「湘南台文化センター」に向かいます(4.0km)。

2期工事の「市民シアター」が竣工したのが1990年10月ですから、こちらは今年で築後25年を迎えます。さて、ここは一体どんな状況になっているのでしょうか？思考がだんだん現況調査者のようになってきました(笑)。

町田線を北上して湘南台西口に向かったのも、この建築の特徴の一つである「チューリップのように開閉するトップライトを持つ分節された

小屋根群」はあまりよく見えません。よって写真なし！そもそも見る方向によって表情が違って（宇宙儀・地球儀・月球儀・フラードームの四種類のドームは、それなりに見えますが…）一方向からの全体像把握は困難なので、やっぱり全景なし！（有名建築だからOKですよ。）

では、またぞろ「さぐり歩きます」。

ステンドグラスがちりばめられたエントランス・パーゴラはプラザまで続いています。右側は池（湘南台池という）ですが、今は注水されていません。



心なしか、新築当初とは全く違う印象を受け、ステンドグラスが何故か「鳥避け」のように感じてしまいました。

施設の奥に進んでいくと、周囲とは明らかに異質な茶色い物体が目飛び込んできました。何とセルフビルド的な…樋です！（オイオイ）

こうなると俄然、雨水処理のディテールが気になってきます（ムム、以下ノコメントで）。



職員の方の御知恵には頭が下がります。
↓これはどうしようもないのかもしれない。



↓「立入禁止」って危険なのでしょうか？



この屋外階段は何だろう？事務所に戻ってからググってみると…解りませんでした。ただ、IHAのホームページに新築当初の写真がありましたが、この部分を拡大すると、やはり「立入禁止」の看板が。その他にもこんなのがある…



時間の経過に問題があるのか、今のトレンドである「維持管理」の観点からすると、少し考えさせられる建築でした。

気分一新、次の現場(?)へ向かいます。

「藤沢SST」(2.9km)。莫大な補助金を受け、9つの企業と藤沢市による「Fujisawa SST協議会」が総事業費600億円を掛け2018年の完



全OPEN（昨年11月にグランドオープン）を目指している、所謂サステナブル・スマートタウンです。

ちょっとだけ路駐してから「100年続くサステナブルな街づくり」を体感するために街区の中を歩いてみました。

うーん、日本設計がランドスケープデザインを担当しているんだよね…。新興住宅地感が半端じゃない。

やはりPだからか？面白い所もあるにはあるが…。

小生は、曙町の「親不孝通り」のような飲兵衛横丁の猥雑とした界限空間が大好きなので、小綺麗な未来都市に対して拒絶反応が出ってしまったかもしれません。



結局、3つの現場（もう現場で構わん！）を廻って「建物探訪」出来たのでしょうか？

毎号「建築探訪」を楽しみにしている方に不快な思いをさせてしまったら、ごめんなさい。

（今日は、疲れた休日でした。 了）

アライアンスとアウトソース

湘南三浦支部 タツミ建設設計事務所 青木 建

今回は仕事の作品というよりは、仕事のスタイルをメインに紹介したいと思います。

現在、設計事務所の大半が個人事務所とされていますが、私の事務所も同じですので、全てのことを一人でやっていると、できる仕事のボリュームは限られてきます。

個人事務所の経営者は皆さん感じていると思いますが、忙しい時もそうでないときも、仕事の消化能力がそれ程変わらないので、中々大きな増収にはつながらない。そうかといって人を入れる程、受注が安定しているわけではない。そんなジレンマの中で、何年も仕事を続けている方が多いのではないのでしょうか。

しかし、少し視点を変えてみると、そこから解放される手段が見えてきます。その中の一つとして業務提携や外部委託があります。

業務拡大や専門的なノウハウを共用できる良い方法で、他業界では常識であり、相当仕組みも構築されているようですが、我々の業界では大手の事務所は別として、個人事務所レベルでは、建築、構造、設備の分業程度で、中々なじみがないようです。もともと建築士の「士」に係るこだわりから、一から十まで全て自分でやるのが、「士」の責任を全うすることだと言う感覚が強いのかも知れません。

建築士法でも、再委託への条件が付いているということで、全ての外部委託が「良くないこと」のように、受け取られている面があるのかとも思っています。

また、そのようなシステムを導入していくには、業務の内容が煩雑で委託範囲を定型化しにくいなど、今まですべてを個の「士」に委ねてきた歴史が長いので、越えなくてはならないハードルもたくさんあると思います。

ただ、顧客からの目線で考えたらどうでしょうか。建築士に求めているものは、専門的な知識であり、昨今のような複合的に専門知識を要求されるような設計をする場合、個人でそんなにオールラウンドな建築士は数少ないだろうと考え、そのような仕事を依頼する場合、選択肢は組織事務所ということになるのではないですか。

つまり、個人事務所では受注環境が狭くなり、

一定の規模や用途の仕事の受注がしにくいということなのです。

また、事務所内の全ての業務の中でも、一般的な事務作業が占める割合は、相当なものではないかと思っています。

建築士としてお願いしている人が、定型文書作成やコピー、ファイル作成等、一般事務作業に多くの時間を割いていたなら、それを見たクライアントはどう思うのでしょうか。折角専門家をお願いしたのだから、もっと専門的なことに専念してほしいと思う方も多いのではないのでしょうか。

つまり、我々もニーズに合っていないスタイルで仕事をしていることに、あまり意識がなさすぎるのかと思っています。そこで取り組まなくてはならないのが、簡単な事務作業の外部委託や、専門的な知識を持っている事務所との業務提携です。

設計業務というのは先程お話しした通り、業務の切り分けが難しい業界なのですが、今後、小規模な事務所が顧客からの信頼を得るためには、避けて通れない道だと思って、取り組んでいくべきだと思います。

ちなみに、うちの事務所も事務作業の外部委託を実施し始めており、今後は様々な業務にあった専門知識やノウハウを持っている事務所と、どの様な形で提携していけるかを模索しているところです。

もちろん業務の形態は個々に様々ですので、そんなことをする必要はないと考えている方もたくさんいるはずですが、しかし、これを読んでいただいた方の中で、ご興味のある方、必要だと考えている方で、ご意見等ある方は直接うちの事務所にお寄せください。このことは少しでも多くの皆さんで、いろいろと考えていきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

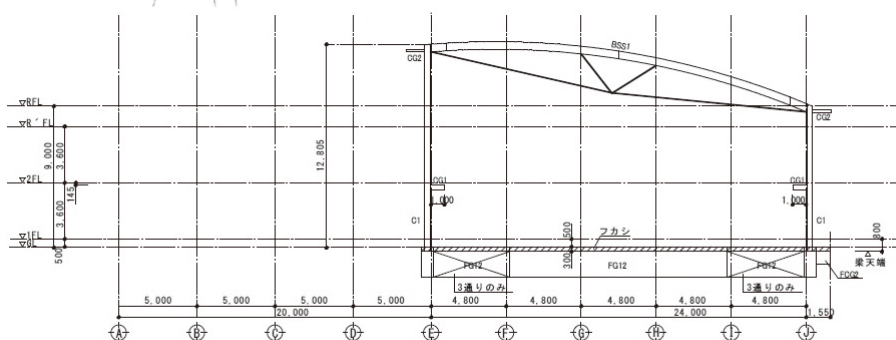
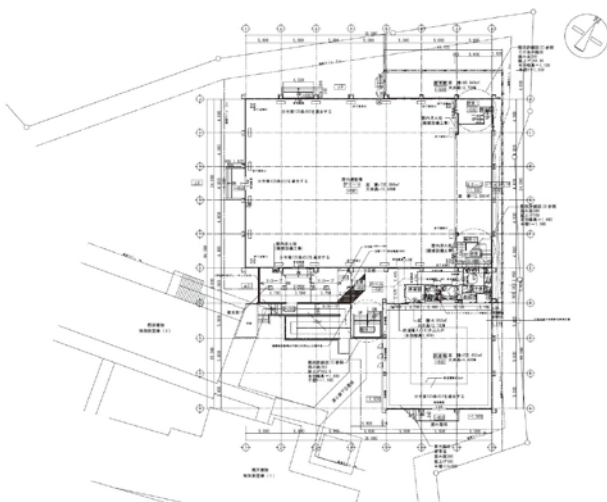
最後になりますが、掲載の建物は、そのような業務形態を試行しながら設計した、地元中学校の体育館新築工事のものです。

当初、基本設計では武道場と体育館が別々の建物になっていました。しかし、スペースの有効活用や、利便性の向上を考え、いろいろと大変な思いをしましたが、一つの建物に集約する

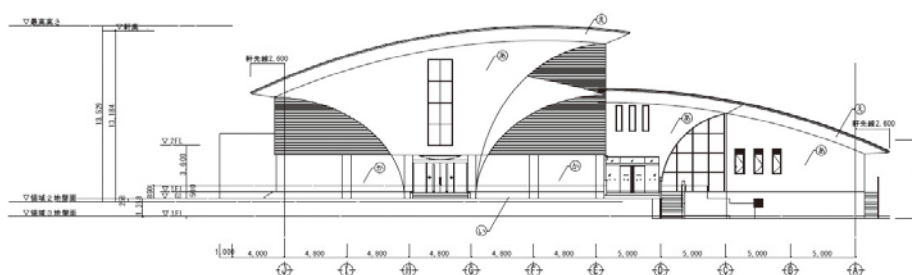
ことを提案して、実現しました。

構造を担当してもらった、ユー空間設計事務所の浦さんの提案で、梁に張弦梁を採用しているので、小屋組みもスッキリとしています。現

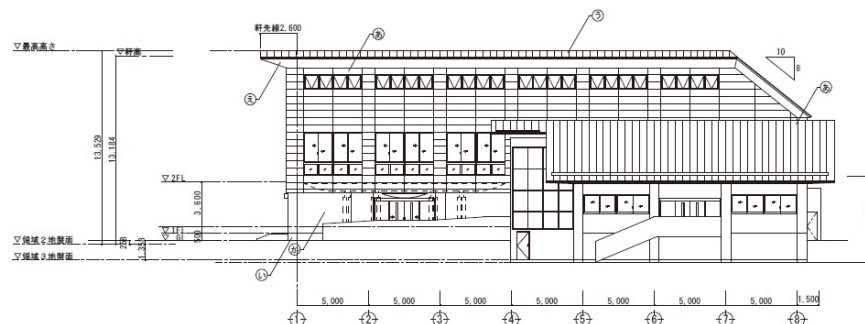
時点では、まだこれから建設工事に入る段階ですので、工事中や完成後の現物の写真はありませんが、今後、出来上がり次第、機会があればまた皆さんにご披露したいと思います。



2. 3 通り軸組図 S=1:200



西側立面図 S=1:200



南側立面図 S=1:200

支部だより 支部独自事業の第一弾！ セミナー＆事例展示会を「Mark is みなとみらい」で開催

横浜支部 古居 みつ子

支部独自事業の第一弾。

市民のみなさまと共に学ぶ「老前整理」セミナー（1/17土）、及び同時開催で事例展示に1週間（1/14水～20日火）取り組みました。

いずれも会場は、横浜美術館の真向いに位置する「MARK IS みなとみらい」4階で、セミナーは横浜市建築局後援、東京ガス(株)協賛を得て実施。

セミナー参加者は40数名。初めての支部単独の取り組みでしたが、終了後のアンケート回収率が高く7割強、全員が「満足」の評価。参加者から「良かった」と声をかけていただく等、好評裏に終了できました。

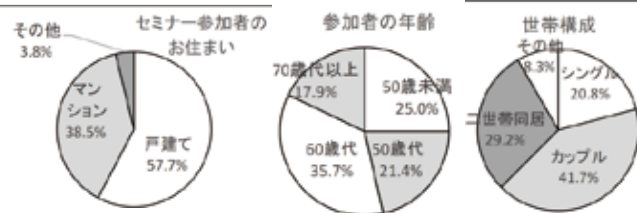


5

■講演メモ

「なぜ、老前整理が必要なのか？」から始まり、「老前整理」「生前整理」「遺品整理」の違い、メリットは何か、計画の立て方・鉄則、等々、具体的なヒント・知恵を伝授していただきました。

「整理を決意すること」は、『将来の生き方を、今、選択することである』というフレーズが印象的でした。参加の男性から、着物のリサイクルの方法について等、いくつかの質疑もあり、心も・暮らしも軽くすることが豊かに自分らしく暮らす知恵の一つであることを実感できたセミナーでした。



※「50歳未満」の若い方の参加もありました。

■アンケートから

参加者は女性7：男性3で、カップルや高齢男性の一人参加もあり、この種のセミナーにしては男性の参加が多かったように思います。

自由記述の感想欄も、殆どの方が記入してくださいました。一部、抜粋してご紹介します。

- ・良いセミナーでした。・とても役に立つ。
- ・非常にわかりやすく、またすぐ実践したくなる内容でした。
- ・ヤカンの輝きの話は納得でした。
- ・「本当にもったいない」とは、「着ないこと」「使わないこと」
- ・福祉職なので、高齢者宅を訪問する機会も多く、本日の話題のようなモノがあふれているお宅も多い。ご本人の領域に踏み込むには、ご本人との関係性も必要と感じています。等々

今後のセミナーへのご希望もいただきました。

- ・老後の暮らし方と住まい方。明るい老後とは？
- ・60歳になったので、これからの住替えのポイントを知りたい。
- ・住宅の断熱等についてセミナーがあると良い。
- ・使い勝手の視点でのバリアフリーの状況を知りたい。等々

■第1回豊かなくらしと住まいのデザイン展

～自分らしい高齢期の暮らしを形にした住まい～

会員の取組み11事例(下記)をパネル展示しました。

タイトル	会員名
自然に包まれる住処 横浜市脱温暖化モデル住宅	(株)ユー・アール・ユー総合研究所 小澤勝美
高齢期の暮らしをデザインする 住まいのエコリノベーション	(株)小波建築設計室一級建築士事務所 小波佳代子
低炭素・省エネルギー住宅のこころみ 自然素材が気持ちいい 無垢の木と珪藻土の自然派住宅	(株)A & A設計室 雨森隆子 A Y設計室 小野綾子
住み続けるための耐震リフォーム	(株)テリトプラン一級建築士事務所 菊池邦子
孫と楽しむ老後リフォーム	ミタス一級建築士事務所 清水場二
眺望と創作を楽しむ…週末住宅	(株)白川設計 白川正孝
還暦過ぎての友人の住まい	(株)星野土建一級建築士事務所 星野修司
初老の夫婦が豊かな時を過ごす家 90年前の民家と110年前の土蔵再生をして終の棲家に変身	港設計一級建築士事務所 山口 英生 (株)汎総合都市研究所横浜事務所 佐藤光良
グループリビングという住まい方 シャロームつきみ野	(有)夢工房一級建築士事務所 古居みつ子

支部だより 川崎支部活動報告 委員会活動と「都市の森林」フォーラム

川崎支部 恩田 耕爾

川崎支部の活動組織は田辺支部長のもと「総務・財務部」、「企画部」、「事業部」で構成されています。そして支部の運営費をうみだす部隊が「事業部」です。その中でいろいろな委員会活動が行われています。年始めに年度の事業報告と来年度の収支予想報告会が催されます。2月4日（水）には夕刻から川崎支部幹事会、合同全体役員会が高津市民館で開催されました。21名の理事、委員長、相談役、地区班長の参加のもと開催されました。総務部、企画部、事業部報告が順に報告がありました。総務部より、幸区役所見学、七土業交流会、川崎市「都市の森フォーラム」予定等及び建築士法改正による賠償責任保険について報告された。企画部からは支部会報発行お知らせ研修旅行等について報告がされた。研修旅行について、最近では海外が主で

したが、今回は国内に変更のようでした。事業部部会報告では各委員長から「環境ユニバーサル委員会」、「木造耐震診断委員会」、「町内会・自治会会館耐震委員会」、「狭あい道路整備委員会」、「RC耐震委員会」、「建物維持保全委員会」などの報告がされました。本年度から耐震改修促進法が改正されたことにより、要安全確認計画記載建築物の耐震診断が義務化され、支部でも通行障害既存不適格建築物の調査業務の取り組みが始まることも報告された。本会委員会報告も続いて業務報告がなされました。最後に、支部長の後任の報告があり、後任の挨拶でしめとなりました。支部長業務は全体のまとめ役で大変でした。これ迄大変お世話になりました。まだしばらく任期がありますがとりあえずお疲れ様でした。



川崎支部会報



合同役員会

※ 2月7日「都市の森林」フォーラムがホテルKSPにて開催されました。

宮城県と川崎市との連携協定締結のイベントが催されました。宮城県の森林資源及び保有する技術と首都圏に隣接する川崎市での木材利用促進を

進め、都市と地方の連携モデルの構築の第一歩となることが期待されます。宮城県河野知事と川崎市福田知事の「結婚」宣言に始まり、最後は立食パーティ形式の披露宴まで盛大に行われました。地方再生の起爆剤になることが期待されます。



「都市の森林」フォーラム宮城県知事挨拶



懇親会風景

【※川崎支部報はホームページで閲覧できます。 <http://www.j-kana.or.jp/kawasaki/>】

旅行記

トルコの旅

川崎支部 恩田 耕爾

トルコは面積77万5000km²あり日本の倍くらいあります。しかもなだらかな丘陵地帯がとて多く広大です。日本は国土の面積の7割が山なので生活の場はもっと少ない。鉄道網がそれほど充実してなく現地では移動は航空機かバスかになりますが、道路がいいのでバスでの移動が一般的です。旅は、イスタンブール(ブルーモスク、アヤソフィア、地下宮殿)→アンカラ(ハットウシャシュ遺跡、ヤズルカヤ遺跡)→カッパドキア(カイマクル地下都市、ギョレメ博物館)→コンヤ(隊商宿、メヴラーナ博物館)→パムッカレ(石灰棚、ヒエラポリス、エフェソス遺跡、アルテミス神殿)、エーゲ海に面したアイワルク(トロイ遺跡)の時計回りの移動でしたが一巡すると日本1周位の移動距離になります。空間の距離も長いですが、歴史の長さも長いです(カッパドキア:紀元前8000年、トロイ城塞都市:紀元前2500年、アヤソフィア:537年、ローマ時代のエフェス都市遺跡:BC2世紀~AD2世紀)。物理的には東西の接点に位置しているのでいろんな文化が混ざり合っています。例えば4000年前のエジプトのスフィンクスと同じ「人間と獅子の合体像」がヤズルカヤ遺跡に発見でき、驚かされます。スフィンクスはエジプトだけのオリジナルなものではなかった。旅に出てまず、①街道をバスで走ると丘陵地帯の彼方此方に住宅(戸建て、団地等)至る所に見えてきますが、必ず新興住宅地にモスクの尖塔が見られます。イスラム教なので当然なのですが、日本では公社、業者が住宅団地内に寺院を作ることにはまずないです。②街で働き、又遊んでいるのは男子で、女性はほとんど家の中です(お爺さんは山にしば刈りに、お婆さん川で洗濯です)。③大統領選挙の時期でしたがアンカラ等大きな街に候補者は現大統領エルドアンさんの写真しか掲示されてなかった。・・・候補者1人で良いのかな…?

さて旅の最後は、ボスポラス海峡を挟んでヨーロッパサイドとアジアサイドを繋ぐボスポラス大橋のたもとにあるドイツの建築家、ブルーノ・タウト自邸の見学予定でしたがあまりの車の渋滞で諦めざるを得なかったのが残念でした。「ジャパンハウス」と呼ばれる塔のような自邸を写真に納めるという予定はかなわなかった。タウトはドイツでは集合住宅を数多く手がけていますが色彩が素晴らしいです。そんな彼が色彩のない「桂離宮」をどうして美しいと思ったのか…面白いです。さて、2020年オリンピ

ックの候補地として「イスタンブール」は「東京」とも争ったがこの渋滞では開催はとても大変かなと感じました。明治23年トルコ軍艦エルトゥールル号の和歌山沖での遭難で地元の人々が助けたことで今でもトルコの人々は日本にとっても好意的です。5年前に病院で隣のベッドに寝ていたのが、大成建設のイスタンブールの現場で働いていたAさんでした。海峡の海をまたいで地下鉄のトンネルを作っていました。話を聴いて面白そうなので行こうと思ひようやく昨年実現しました。カメラを持って建物の写真を撮っているとよく大成建設かと聞かれました…。



旅のルート



イスタンブール：ブルーモスク



カッパドキア洞窟内での民俗舞踏



渓谷の上を飛ぶバルーン



気球搭乗証明とカクテルパーティ



ドライブイン：売り子はほとんど男



シルクロードの隊商宿



パムッカレの温泉を楽しむ人達



エーゲ海側ダーダネルス海峡を渡る



絨毯を織る若い女性



ローマ時代の遺跡：図書館



パースからのご夫妻とホテルで

委員会活動報告 ～「法制委員会報告」～

法制委員長 柏木 健司

法制委員会担当の「建築基準法・建築士法改正」講習会を第1回は昨年12月1日(月)海老名市文化会館で、第2回は同じく昨年12月12日(金)横浜市技能文化会館で、追加として、第3回本年1月30日(金)に、横浜情報文化センターにて開催させていただきました。

講師には、神奈川県県土整備局建築住宅部建築指導課・建築安全課課員の方々をお迎えし、おかげさまで三回とも盛況で、特に第1回は会場の都合で参加をお断りする程でした。

企画・立案には企画委員会・指導委員会・ブロック支部委員会の方々の御協力を頂きましたこと、この紙面をお借りして御礼申し上げます。

司会進行は、第1回は我が委員会の知恵袋、井上委員。第2回は、堅実な田中副委員長。第3回は、若手の岩田委員が担当し、受付設営等は、ベテランの小山、関谷、高橋、志村の各委員が交代で務めました。

各会場、講習会の様子は掲載の写真をご覧ください。

大きな会場での講習会は初めての経験でしたが、事務局員の皆様、芝担当副会長のアドバイスも頂きながら、無事終えることができました。

神事協会員の皆様方の参加にも感謝しつつ、

ご報告いたします。有難うございました。

なお、今回の講習会を通じて10社ほどのご入会をいただきました。

ご入会された方は、今後ともよろしくお願い致します。



第2回横浜市技能文化会館



第2回横浜市技能文化会館



第2回横浜市技能文化会館



第3回横浜情報文化センター

新入会員のご紹介

1月1日付け入会者

横浜支部

株式会社Kino.arch-office
〒221-0045 横浜市神奈川区神奈川2-17-1
ルピナス東神奈川305
TEL.045-620-8985 FAX.045-620-8986

木下 貴雄

川崎支部

小西構造企画
〒211-0042 川崎市中原区下新城3-1-22
TEL.044-777-0666 FAX.044-777-0666

小西 孝夫

高嶺建設株式会社一級建築士事務所
〒216-0006 川崎市宮前区宮前平1-10-12
TEL.044-855-3526 FAX.044-855-4326

北村 昭

鎌倉支部

一級建築士事務所アトリエい
〒248-0003 鎌倉市浄明寺4-1-14
TEL.0467-67-4224 FAX.0467-67-4224

加藤 景

退会者

横浜支部

株式会社 ビッグヴァン
和泉デザインスタジオ一級建築士事務所
コウゲン建設株式会社一級建築士事務所
株式会社新航建築事務所

眞殿 治

和泉 康平

廣田 孝道

竹之内 秀司朗

川崎支部

佐竹建設株式会社 一級建築士事務所
株式会社 翔建築設計事務所
有限会社アトリエ アイズ
中村建築設計事務所

佐竹 由光

伊藤 和夫

今井 博康

中村 博文

大和綾瀬支部

アシスト一級建築士事務所

尾形 文範

相模原支部

グリーン設計

石井 明

会 勢

平成27年2月1日現在

支部名	平成26年3月末日	現在	入会者	退会者	増減
横 浜	254	265	23	12	11
川 崎	108	105	3	1	-3
横 須 賀	51	51	1	1	0
湘 南 三 浦	18	17	0	1	-1
藤 沢	24	23	0	1	-1
鎌 倉	38	38	1	1	0
茅ヶ崎葉川	18	18	0	0	0
平 塚	22	21	0	1	-1
秦 野	19	20	1	0	1
伊 勢 原	8	8	0	0	0
大和綾瀬	20	18	1	3	-2
厚 木	32	32	0	0	0
座 間	12	12	0	0	0
海 老 名	15	14	0	1	-1
愛 川	8	7	0	1	-1
相 模 原	79	76	1	4	-3
県 西	47	42	1	6	-5
合 計	773	767	32	38	-6
賛助会員	78	79	9	8	1

※退会報告等の状況により会員数は常に変動しております。

編集者のつぶやき

昨年、車イスの日々を送る生活をして福祉について考えさせられました。

普段あまり使わない階段の手摺、特に公の施設、また駅の階段に設置されているものがこれほどありがたいとは思いませんでした。

駅の階段は理想的な蹴上・踏面寸法とは聞いていましたが、上り下りする時の手摺の感覚そして階段の勾配等改めて実感しました。

また、みんなのトイレでの車イス対応のスペース、実務では条例にあるスペースがあればと図面にしていましたが、便器の横の可動手摺や手洗いの鏡の角度、車イスの回転半径等どれも重要なものでした。

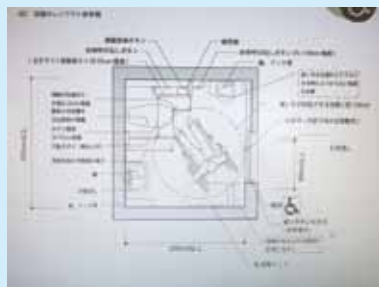
トイレの中には非常ベルはあるものの一人ではなければならない不安、不慣れな車イスからの乗り降り、そこには手摺があり安心できました。用が済めば狭いスペースで車イスを回転させなければなりません、慣れるまでが苦労でしたが便器、洗面器と配置が良く考慮されているのが分かります。

排水溝の点検蓋の少しの段差も車イスが止まってしまう厄介なものでした。

今では、何気なく歩いていた街中でも段差や勾配がとても気になります。

自らが体験して目に入らないものが大変あることに実感し、今後実務に生かせればと思う日々です。

【坪井 教一】



■会報“KANAGAWA1月号”に関するお詫びと訂正

P10 編集者のつぶやき 19行目 (誤) 藤村照信 → (正) 藤森照信
謹んでお詫びを申し上げますとともに、訂正させていただきます。

かながわ 平成27年3月号 (通号395号)

発行 平成27年3月1日 (奇数月1日発行)
発行人 小林 忠志
発行所 一般社団法人 神奈川県建築士事務所協会
〒231-0032 横浜市中区不老町3-12 第3不二ビル2F
TEL. 045-228-0755 / FAX. 045-212-3807
印刷所 株式会社 柏苑社

担当副会長 芝 京子
広報情報委員長 白川 正孝
広報情報副委員長 宮寺 透雄 小泉 厚
広報情報委員 森 雄治 恩田 耕爾 棚橋 由佳
新倉 良一 坪井 教一 杉本 勝郎
事務局 小林 恵美



今月の表紙

横濱夜景

地上290mに届かんとする場所から見下ろすみなとの夜景は、ガス灯のともった過ぎし日の風情とはかけ離れていました。オフィス街の蛍光灯やLED の白い光の洪水が押し寄せる中、唯一抵抗しているのは、道路やレンガ倉庫、港湾地区のナトリウム灯。赤い光にガス灯の面影を見るのは私だけでしょうか。



一般
社団法人

神奈川県建築士事務所協会

Kanagawa Architect Office Association